

今も掘り続ける現役の砥石職人 京都亀岡砥取家



土橋要造
砥取家四代目。創業は明治10年、現当主になってから35年という。数多の砥石山が閉山していく中、本格的な採掘を続けている唯一の存在といえる。生産地直売方式により「採っただけ売る」ことで、未永く砥石採掘の火を灯し続けている。

砥石が地場産業として栄えた時代、砥石を掘る職人たちはただ掘るだけでよかった。買い取りに来る卸屋に砥石を売ればそれで成り立った時代なのだ。

「今は一本一本売っていかないとダメです。せめて研げないと話になりません…」

山から掘り出し、卸業者が買っていく…そういう業態が姿を消してから、土橋さんにとって砥石は掘るだけのものでは無くなった。

現在、さまざまなイベント出店やインターネットでの普及、直販形態と幅広く展開し、多くのユーザーがこの地まで「研ぎ」に訪れるという。

